

「 八・六水害について 」

鹿児島市立花野小学校 5年 川畑 涼空

テレビで水に人が流される映像を見ました。他にも、車が水につかった様子、大きな木が川に流されていく様子、川がはんらんして水びたしになった町の様子を見ました。鹿児島市が大変な姿になった8・6水害の特集でした。ぼくが初めて8・6水害のことを知ったのは、4年生の社会で鹿児島県のことを学習したときのことです。流された橋を見て、雨がふっただけでこんなひ害になるんだと、おどろいたことを覚えています。でも、5年生になって改めて8・6水害のことを考えてみると、「水ってこわいな。ぼくがくらししていく鹿児島の未来にこんなことがないようにしていきたいな。」と思うようになりました。当時、どんな危険があったかを、家族のみんなに聞いてこれからの鹿児島の町になにが必要かを考えてみたいです。

まずは、お父さんに聞いてみました。お父さんは、当時、中学2年生で河頭周辺に住んでいました。おじいちゃんと2人でごはんを食べている時に雨がひどくなったそうです。その時、突然くずれた土砂が家の中に入ってきました。あわてて2人は、近所の2階建ての家ひなんしました。早めのひなんでたすかりました。国道3号線はひざくらいまで水が増えていたそうです。次の日、家にもどると中は、水や土砂が入りめちゃくちゃになっていて、ほとんどの物が使えなくなったと言っていました。家の中に残っていた写真は水で洗った数枚だけだそうです。少しでも写真が残っていてよかったと思います。

次に、お母さんとおばあちゃんに聞いてみました。お母さんたちは、当時中学3年生で、明和に住んでいました。雨や風が強くなってきて停電になりました。ろうそくやかい中電灯を使いすごしたそうです。雨戸を閉めていたので真っ暗な中に明かりが少なく、とてもこわかったと言っていました。テレビが見れないので、情報が入ってこずとても心配で不安だったみたいです。ラジオがあればよかったと言っていました。また、水が出なくなってお友達の家から分けてもらい助かったそうです。家の外では飛んできた枝や葉っぱが、はい水こうにつまるので何度もそうじをしました。お母さんは、1人じゃなくてよかったと言っていました。ぼくは、情報が入ってこない暗やみの中で過ごす時間がとてもこわいだろうなと思いました。

次におじいちゃんちゃんに聞いてみました。仕事中で城西周辺にいたそうです。おじいちゃんは、けいさつ官でした。交通事故の係です。つる丸高校前の信号のある交差点で事故の通ぼうがあったそうです。交通事故しよ理パトカーで向かいました。どしゃぶりでしたが、水はあふれていなかったそうです。しかし、事故をしよ理していると、甲突川の方からどンドン水が増えてきたそうです。急いでつる丸高校の方にパトカーを移動させ、近くを通っている車をゆう動しひなんさせたそうです。移動する時間が少しでもおそかったらあぶなかったと言っていました。その後、西けいさつしよに歩いて向かったそうです。もうその時は、水はこしのあたりまできていて、歩くのも大変なじょうたいだったと言っていました。西けいさつしよに止めている車は、屋根までつかっていたそうです。けいさつしよの中もひざくらいまで水がたまっていました。通ぼうがきても、もう、助けに

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 最優秀賞

いくことはできなかつたと言っていました。

雨がふっただけでこんな大きなひ害がでるなんて、心が痛みます。死者や行方不明者は、49 人にのぼったそうです。もし、お父さんやお母さんが生きていなければ、ぼくは生まれていません。家族みんなですごせることがとても幸せです。これからの鹿児島町の町に必要なことは、当時、さい害にあわれた方の話をもっとたくさん聞いて、ぼくたち子供もさい害のことを考えていくことだと思います。